

2025.6.12

令和7年度 和坂小学校・環境学習桜守活動報告

藤原春善(1093)

- 1, 活動日時：2025年6月12日10時30分～12時30分 曇り一時雨後晴
- 2, 活動場所：和坂小学校・校庭
- 3, 活動人員：和坂小学校（教頭・近藤先生・3年生）55名
まちづくり協議会サポート隊1名・桜守ボランティア4名
兵庫県樹木医会樹木医（和田・山中・藤原）

4, 活動内容

(1) 桜の環境体験学習として校内のシメイヨシノを5班編成で、現状を観察調査指導した。

A班：山中・矢谷、B班：藤原・松阪、C班：和田、D班：須賀、
E班：長谷川・奥田

(2) B班（NO19・16）のソメイヨシノの実態

NO19：周径（18.5cm）、高さ（168cm）、枝葉（良好）、幹（主幹上部カット処理あるが復活の兆しあり）、根元（ヒコバエあり）、土壤硬度（12～22mm）で良好あるが、表土20cm以深は、26mm以上で非常に硬く根が伸長できない状態で主幹の先端枯れの原因になっている。下草はアオカモジグサ、ナギナタガヤ、スズメノチャヒキ等イネ科植物の花粉症をおこしやすい植物が見られた。

回復の兆しがあるが要注意木である。

- ・切り口を再度トップジンによる殺菌処理
- ・深さ20cm以深の土壤改良（割竹法、検土壤等による土壤改良）
- ・除草を行う



B班NO19,後方16ソメイヨシノ



NO19 梢端を切除されたソメイヨシノ

NO16：周径（87cm）、高さ（290cm）、枝葉（枝枯れあり）、
幹（心材腐朽）、ウメノキゴケ着生剥がれあり）、根元（ヒコバエ、
樹皮割れあり）、土壤硬度（12mm～18mm）良好であるが、表土
20cm以深は26mm以上で非常に硬く根が張れない状態で、

主幹の先端枯れ心材腐朽を生じている。見かけ上では、良好に見えるが詳細を見ると要注意木で、手当が必要である。

- 20cm 以深の土壌改良（割竹法、検土壌等による土壌改良）
- 梢端の枯れ枝を処理し、傷口にトップジン等により殺菌処理及び心材腐朽、根元腐朽部についても慎重に殺菌処理を行う。
- 枯れ枝のウメノキゴケ着生部は剪定処理し、切口を殺菌処理する。



N016 全景



ウメノキゴケ（地衣類）が着生したソメイヨシノ



N016 梢端枯れのソメイヨシノ



N016 心材腐朽したソメイヨシノ

(3) 全体概要



玄関で説明を聞く和坂小学校3年生



B班 No16,後方 C班 13~9,D班 8~5,E班 4,3





NO8 アブラムシ類による新芽枯れたヒコバエ、NO3 コスカソバの侵入し樹液が発生及びウメノキゴケ地衣類が発生

- ① 「梢端枯れ」は A,B,C 班で見られ、水不足、乾燥状態にある。
表土は山中式土壤硬度計では、7~22mm で、一見良好であるが、土壤の深さ 20cm 以深では、26mm 以上で根が張れない非常に硬い層になっている。
従って、細根が生育する深さ 40cm 程度まで割竹法、検土壤等で土壤改良をする必要がある。
- ② ウメノキゴケ等地衣類が着生した B,E 班で見られ、わずかに生育低下、枯れ枝が見られた。
従って、枯れ枝を落として、傷口にトップジン等の殺菌剤を塗布するとともに、日当たりの悪い重なり枝、下がり枝、病虫害に食害された枝等を剪定して、日当たりの改善を図る。
- ③ ヒコバエ、胴吹が多いソメイヨシノは、日当たり不足を補うために見られる。
一見勢いを感じるが、日当たりを見て、有効な枝を選定して再生を図る。
- ④ サクラフシアブラムシ、サクラコブアブラムシの 2 種により、新葉枯れ、葉の萎縮が生じ、生育低下が C,D 班で見られた。
従って、枯れ芽、萎縮等病虫害枝を剪定除去するとともに、中間宿主であるヨモギ等の雑草を除去する。
- ⑤ E 班等で見られる幹から樹液が出ているコスカシバの孔が確認され、若干の生育低下が生じていた。
従って、樹液が流出している孔から針金などで、捕殺し、トップジン等の殺菌剤を塗布する。
- ⑥ ホソムギ、ナギナタガヤ等イネ科の花粉症を引き起こす侵略的外来種は除草する。